

Richt ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第127号

nanae historical
museum collection



ななえ古写真物語

VOL. 127

ブナ林は語る

ガルトネル・ブナ林

昭和40年頃

桜町地区

七飯町の国道5号沿い、桜町地区にあるブナ林。人工のブナ林としては、日本で最古級と考えられ、杉のように上へ伸びる姿が、本来のブナの姿とはかけ離れて見えるので、外国の種なのかと思われがちだが、実は、ななえの山から幼木を取り出して植えたものである。「ガルトネルブナ林」。今も国道から見える大きな看板が掲げられているので、植栽の歴史を知らなくても、その名を知る人は多いだろう。

明治2年、七重村の土地を300万坪借り受け、西洋式農法を日本人に初めて伝習したプロシア（ドイツ）人のR・ガルトネルが、望郷の念で植えたとされるブナ林である。近年では、ブタの飼育をしていたガルトネルが、ブナの実を飼料にするために植えたという見解もあるが、いずれにせよ、現在も残されている歴史遺産であり、七飯町が日本における近代農業発祥の地をうたう証拠となる林でもある。

幸いなことに、ブナは水分を多く含む樹木であることから、建材には不向きとして、太平洋戦争中の物資供出の対象からはずれたことや、営林署の管轄となったこともあり、幾分の台風の被害で折れたりしたもの、今でも当時の様相を伝えている。

写真は、やや昔のブナ林を撮影したもので、看板が「ガルトネル」ではなく「ガルトナー」と表示されている。R（ラインハルト）・ガルトネルは、現在では一般的な呼び名となっているが、正式にはR・Gartnerと表記される。記録には「ゲルトナー、ガルト、ガルトナー」という具合に、耳で聞いた音をカタカナ表記したためか、同一人物なのに、複数の呼び名が残されている。

ところで、ガルトネルの農場は、長続きすることはなく、62,500ドルの賠償金を支払うことで、明治政府が取り戻し、後に開拓使「七重官園」を設置することになったのだが、そうでなければ、1960年代まで七飯町の大部分がガルトネルの所有地だった計算になる。もしかしたら、七飯のみならず、北海道、果ては日本が、ドイツの植民地と化していた可能性もあったといえる。それほどまでに、当時の日本は、国際的な問題になりかねない状況だったのである。

今年は、北海道命名150年を迎え、全道各地で様々なイベントが行われ、盛り上がりを見せているようだが、そんな世間をよそに、ブナ林は、今も静かに歴史を語っている。

6日 夜の博物館前期講座が始まりました。自然誌に関する講座を、4回にわたって行います。第1夜は「大沼の伝説を読む」。コシャミンの戦いで活躍した相原周防守のお話を中心に、駒ヶ岳の由来、精進川や鬼柳などの地名にまつわる伝説、一角獣やうなぎ塚の話などを、七飯町史や村史を読み解き、お話を進めました。口承や文字を通して伝わるこれらのものは、早くに観光化した大沼だからこそ、残る伝説の数々。神秘的で手つかずな自然が残る少し前の大沼、時代の流れと共に何か忘れてきたものがあるかも知れません。



21日 歴史館の常設展示室には、早期から続縄文時代までの土器を展示しています。この度、土器など10点ほどが、青森県八戸市の是川縄文館で展示のため、貸し出しをしました。実はこの作業、一点一点を細かくチェックし、記録の写真を撮影し、専門の運送会社に丁寧に梱包されて、運ばれていきます。じっくりとその所作を観察すると、熟練の技や、モノに対するこだわりを感じました。海を越え、七飯の土器が多くの人に見てもらえますように。



30日 ジュニア探検クラブを行いました。予定では、七飯岳の登山でしたが、安定しない天候の為に中止とし、木古内町郷土資料館の見学となりました。道中のバスの中は、とても賑やか。車窓からの海や函館山にかかる雲の帯を横目に見ながらの移動でした。資料館では、館内の展示物の解説のあとに、自由見学。鉄道資料に興味津々の子や、手回しサイレンを鳴らしてみる子など、それぞれに楽しんでいました。帰館後は、育成中のさつまいもとアイの除草をし、ワークシートに観察記録をしました。長い一日、ごくろうさまでした。



8月の予定

1	水	夜の博物館
2	木	テーマ展開催中
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	山の日
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	ジュニア探検クラブ
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

8月の休館日はありません

砂のはなし

展示に必要な砂を求め、川や海へ。トンネルを作って遊んだ昔は何処、今は石英の粒に夢中です。



編集後記 ~tawagoto~

長雨が続けている。夏らしい陽が差す日も時折あったが、長続きはせず、どんよりとした曇り空、そして雨。きっと蝦夷梅雨というやつだろう。

さすがに、農作物にも影響があるようで、町の名産であるリンゴの葉にも病気が出始めたという。恵みの雨も、続くと弊害が生じるということだろう。何事も、「程」が大事なのだと、善意で親切を押しつけ続けるヒトに疎ましさを覚えるのと同じ感覚に陥っている。
(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari 第127号

平成30年7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp